

彩月

いろどりづき

9月の異名、「色取り月」とも書き、木の葉が色づく月という意味から。旧暦の9月は現在の10月にあたるので紅葉はもう少し先になりますが、ひと雨ごとに秋のさわやかさを感じられる季節になっていく変化の月。

涼やかな風が秋の訪れを告げ、かのように木の葉を揺らし、そよぐねぎ畑も秋がいていきます。



8月15日に関西通過した台風7号。直撃の進路ではありましたが、想定より大きな被害にならず。毎年の台風対策で経験値も重ね、備えて挑むことができ、暑い中でも悪天候の中でも、日々ねぎに愛情をかける農人たちの努力や苦勞も救われました。

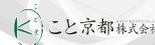
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.196

2023年9月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP



夏菜

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

台風にも少し助けられた夏菜のお届け

丹後・美山で6月に定植したねぎたち。7月中旬から雨が降らず、水不足に苦慮しました。ねぎは乾燥に強い作物なので、水がなくて枯れるということはありませんが、生育中は水が必要。1ヶ月以上ほとんど雨が降らず、その期間は生育が止まってしまいました。灌水したものの、人がやれる水の量は大了ことなく、暑い中での作業なので「焼け石に水」と思うことも。不幸中の幸いで、台風上陸の際に、まとまった雨をもらうことができ、ねぎの顔色も変わり、少しずつ生育してくれました。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

産地リレーで仲間の産地を助け合い

今年も暑い日が続き、雨もまとまった降り方で、露地栽培としては厳しい環境の夏シーズン。夏のメイン圃場である、丹後・美山の収量は、獣害の影響も相まって例年に比べると不作の年でした。そんな中、踏ん張りをみせてくれたのが京都市内の農人メンバー！夏の京都市内は盆地で、京都の中でも特に暑く、ねぎ栽培が難しくなる期間です。そのため、例年であれば製品用のねぎを用意する期間ではありませんが、ねぎが不足している状況になったため、急遽



用意することになりました。他の地域と比べて気温が高く、虫害リスクも高い地域ですが、きちんと手をかけてくれていたおかげで、少し短めながらも良い品質の状態での収穫することができました。安定供給のため、産地リレーを行っていますが、どこかの地域で何かあった時に補完し合えることも、私たちが取り組んでいる産地リレーの良い所だと思えた年でした。台風の被害も想定より小さく、ホッとしました。



台風前にタフバンドでねぎを固定し倒伏を防止



9月上旬には刈り込みを行い、ねぎ栽培のための緑肥に!



7月に種を蒔いたおまわり畑も8月下旬に見穫を迎えました!

とある日の農人日記。

連日の猛暑、雨不足による生育の停滞、草引き等の作業の立て込みに加え、台風直撃の予報は精神的にかなりこたえました。しかし、掲げている「Never Give Up」を思い出し、台風対策に取り組みました。(丹後エリア・浅尾)

こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。